

佳作

「私と家族とお箏と」

滋賀県 大津市立青山小学校 六年 松村 美咲

私は、二年生の四月に、広島県から滋賀県へ引越して来ました。二年半、父が単身赴任していたので、やっと毎日一緒にいることができる、初めはワクワクしていました。でも、住み慣れた家から離れ、ダンボールだらけのマンションに着くと、急に不安になりました。家族みんなでいる喜びよりも、姉妹以上に仲良くしていた広島の友達のことばかり考えるようになりました。新しい学校にはすぐに慣れ、先生や新しい友達とも楽しく学校生活を過ごしていましたが、家に帰ると、なぜかさみしくなり、お別れの時に、みんなからもらったメッセージカードをカーテンにかくれては読み、涙をこらえては泣くようになりました。そんな私に気付いた母は、私がこわれてしまうようで、すごく不安になっていたそうです。

そんなある日、学校からオレンジ色の紙の真ん中に、不思議な楽器が書いてあるお手紙をもらいました。それは、お箏のコンサートのおさそいでした。すごく興味がわいてきて両親にたのんで、連れて行ってもらいました。そのお箏は、すごくすてきな音色で、キラキラとかがやいて見えました。私は一生懸命演奏を聞き、「風にきけ」という曲を聞いた瞬間、私も弾いてみたいと思いました。両親は私が怖い顔をして、熱心に聞き入っている姿を見て、楽しくないのかと思ってしまったそうです。コンサートが終わり、父と妹・母・私の順に、エレベーターへ乗りかけていきましたが、とっさに、

「お箏が習いたいから、先生に、お願いしてー」とさげびました。私のあまりの勢いに、みんなあわてて下りて、母と私は先生を探しに行き、それがきっかけで、お箏を習えるようになりました。私は、毎日楽しく練習し、いつの間にか泣く事もなくなり、お箏が上達するにつれて、いろいろな事に自信が持てるようになりました。

お箏を始めて四年のこの夏、広島県の福山市で開催される箏コンクールに挑戦しました。初めてお箏を聞いて感動した、「風にきけ」という曲で出場しました。遊ぶことや、おやつを買うことも我慢して、毎日大好きな曲を一生懸命練習しました。そんな私を、お箏の麻植先生は熱心に御指導してくださいました。家族のみんなも出かけることなく、私の練習時間を見守ってくれていました。みんなの協力のおかげで、小学生の部で最優秀賞をいただくことができました。

エレベーターを下りて待つてくれて家族、お箏を買う時に、自分のお小遣いをためて出資してくれた父、お出かけを我慢してくれた妹、そばで見守ってくれていた母、涙を流して喜んでくれた祖父母、優勝した瞬間、今まで感じた事のない喜びでいっぱいになりました。いつも私を支えてくれる家族みんなで得た賞のようでした。みんなありがとう！